

【別紙 1/2】

■ 為末 大(Dai Tamesue)氏プロフィール



1978年5月3日広島県生まれ。陸上スプリント種目の世界大会で日本人として初のメダル獲得者。男子400メートルハードルの日本記録保持者(2015年3月現在)。

2001年エドモントン世界選手権および2005年ヘルシンキ世界選手権において、男子400メートルハードルで銅メダル。

シドニー、アテネ、北京と3度のオリンピックに出場。2003年、プロに転向。2012年、25年間の現役生活から引退。

現在は、アスリートの社会的自立を支援する一般社団法人アスリート・ソサエティ(2010年設立)、教育などをテーマに研究する為末大学(2012年開講)、ソニーコンピュータサイエンス研究所(ソニーCSL)で義足を研究している遠藤謙氏らと陸上競技用の義足を開発する会社 Xiborg(2014年設立)などを通じ、スポーツ、社会、教育、研究に関する活動を幅広く行っている。

● 為末 大 オフィシャルサイト

<http://tamesue.jp/>

■ 佐藤 圭太(Keita Sato)選手プロフィール



1991年7月26日生まれ、静岡県藤枝市出身。小学4年生からサッカーを始める。ポジションはGK。中学3年生までサッカーを続けるが、右足のくるぶし上に腫れと痛みを覚え病院で診察を行う。診断の結果、悪性腫瘍の一つの「ユーイング肉腫」と判明。右下腿を切断し、義足を履く。

高校進学を機に陸上競技を始める。競技の中でパラリンピアンと出会い、パラリンピックを志し、陸上競技の強豪、中京大学に進学。練習を重ね、2012年、ロンドンパラリンピックに出場。現在は中京大学職員。陸上競技(短距離 右脚下腿切断)で100mで11秒85の日本記録、200mで23秒85の日本記録とアジア記録保持者(2015年6月現在)。

## 【別紙 2/2】

### ■坂口 竜太郎 (Ryotaro Sakaguchi) 選手プロフィール



2005年12月23日生まれ、福岡県出身。2歳の時、交通事故で脊髄を損傷。身体の約7割が動かなくなり、車いすでの生活が始まった。テレビで国枝慎吾選手のプレーを見たことをきっかけに、テニスを始める。2013年8月、群馬県で行われた第2回高崎テニスクラブ杯で優勝、2014年に行われた第2回～第5回浦安ジュニア車いす大会でも連続優勝。同年の東京都北区テニスフェスタドリームチーム(プロ選手+ジュニア代表)で準優勝と、数々のタイトルを獲得している。現在は、千葉県内の小学校に通いながら「車いすテニス」でパラリンピック出場を夢見ている。

### ■秦 由加子 (Yukako Hata) 選手プロフィール



1981年4月10日生まれ、千葉県出身。13歳で骨肉腫を発症し、右大腿部より切断。幼少のころに経験した水泳を2007年に再開し、2008年より障がい者の水泳大会に出場。

2010年から2012年まで「日本障がい者水泳連盟」の国際大会強化指定選手として国内外の大会に出場。2013年トライアスロン競技に転向。同年6月幕張トライアスロン大会に出場し、好成績を残す。

2014年7月、JTU(日本トライアスロン連合)のパラトライアスロン強化指定選手A指定を受ける。

2015年5月には、2015ITU世界パラトライアスロン横浜大会 TRI2 女子で、同大会2年連続優勝を果たした。